

# 「主や爾によぶ」の生神女讃詞 第四調

日曜日



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも 世世に アミン  
天使の品位に超える 純潔なるものよ、 天使とともに  
天使 及び万物を司る 主にいのりて  
我等に諸罪の赦しをたま - い 我等を諸欲より 脱れしめ  
われらを その時に彼の光栄を うたい  
及び永福を嗣ぐに勝うる者となさんことを 求めたま - え

月曜日



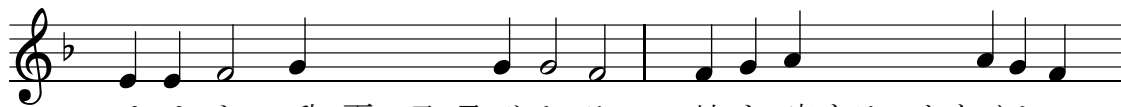
光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも 世世に アミン  
純潔なる 少女よ、 我に 中心よりの なみだ、  
うちよりの 嘆 <sup>そく</sup> たましいの いた - み、  
<sup>どせい</sup> 度生のうちに行いし <sup>しはざい</sup> 諸罪の痛告を あたえたま - え、  
我が爾の助け によりて、 ゆるしを 得んためな - り

火曜日

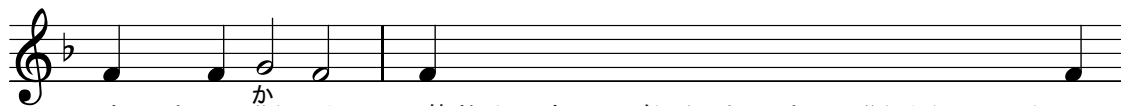
ソレエノ



光 栄は父と子と聖神に帰すいまもいつも 世 世にアミン



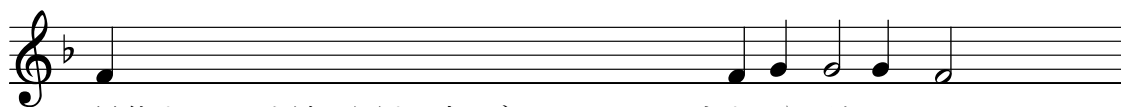
ははよ、我爾の子及びかみ 地を 寄することなくして



水の上に懸<sup>か</sup>け 萬物を 造りし者が 木の上に 懸けられしを見て



な<sup>な</sup>く なか<sup>な</sup> - れ 蓋<sup>けだし</sup>我復かつして 光えいを得

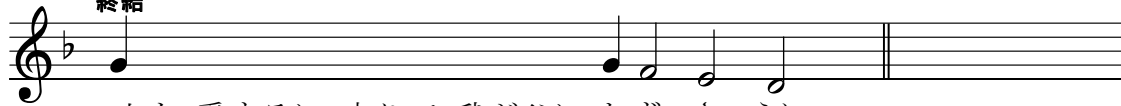


異能を以て地獄の國を滅ぼし その力をやぶりて



慈憐なるによりて 縛<sup>しば</sup>られし者を 苦しみより 釈<sup>と</sup>き

終結

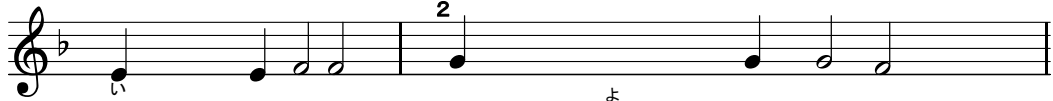


人を愛するに 由りて 我が父にたず さえん

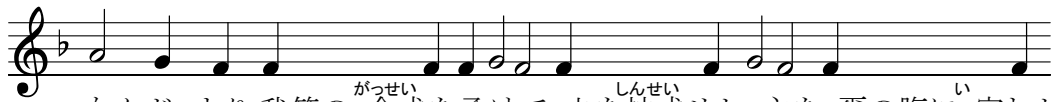
水曜日



光栄は父と子と聖神に帰すいまもいつも 世 世にアミン



容れられざる かみ、 仁愛なるに<sup>よ</sup>りて人と 為り



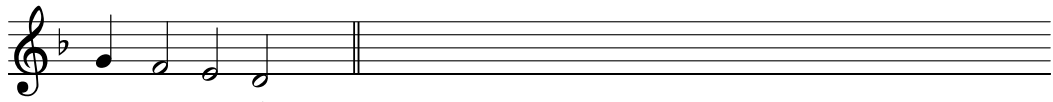
なんじより我等の<sup>がっせい</sup>合成を承けて 之を<sup>しんせい</sup>神成せし 主を 爾の腹に<sup>い</sup>容れし



純潔なる 童貞女よ、 我 今憂うる者を棄てずして、

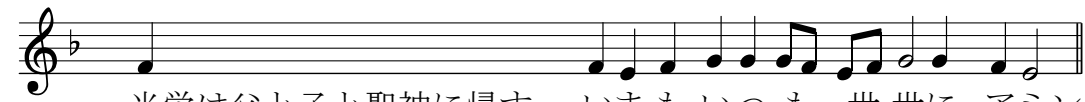


速やかになだめて、 凶悪者の<sup>こうてき</sup>抗敵 及び 侵害より 脱れしめ



たまーえ。

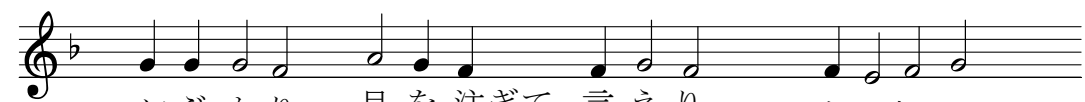
木曜日



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも 世世に アミン



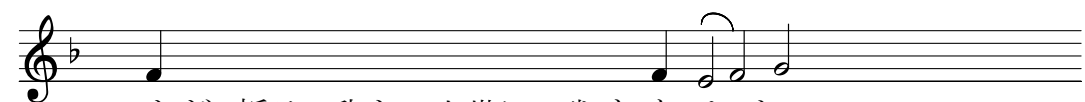
主よ 童貞女 爾の<sup>は</sup>母<sup>は</sup>は 爾が十字架に懸けられしを見て



いぶかり 目を注ぎて 言えり、 主宰よ、



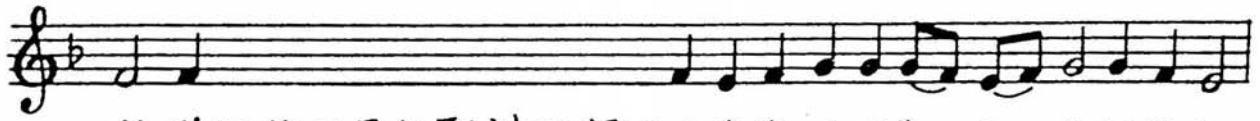
爾の多くの恩寵を楽 しみしものは、何か爾に むくいたる、



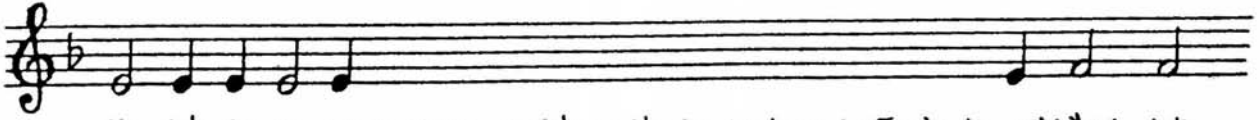
ただ 祈る 我を一人世に 残すな かれ



速やかに 復かつして、おのれと共に原祖を おこしたまーえ。



光栄は父と子と聖神に帰すいまもいつも よよにアミン



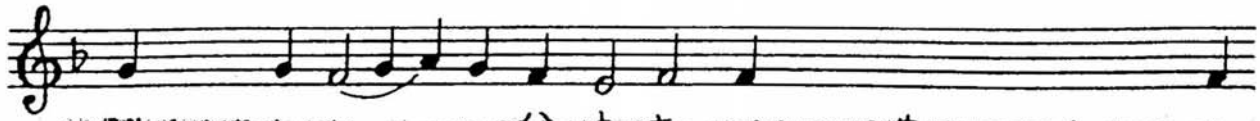
生神女や汝によりて神の先祖となりし預言者ダビデは  
カミ センソ ヨゲンヤ



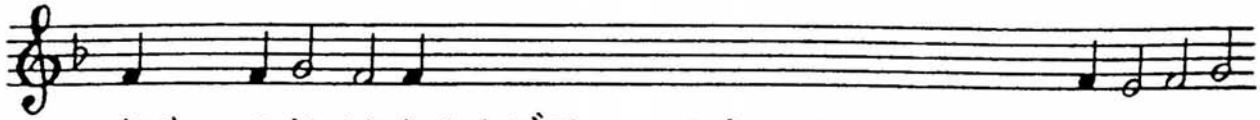
汝に大いなることをなせしものになんじのことを歌いよべり  
オキ



女王は汝の右に立てりどけだし父なく汝より甘んじて人の  
ヨオキ



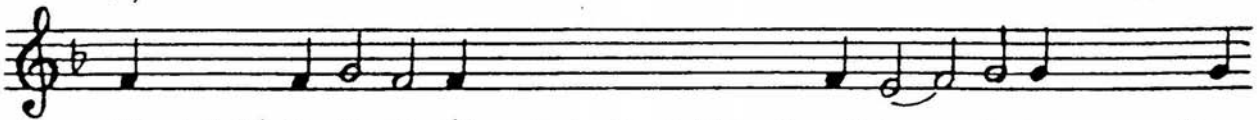
性をとりしかみえすおおいにして豊なるあわれみを  
セイ



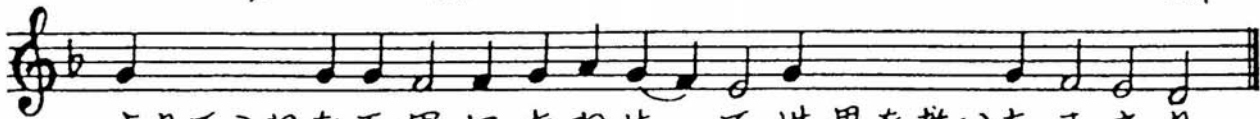
たもつの主はなんじが母にして命のなかだちたるを表わして  
イチ



欲にくちたるおのれのかたちをあらため山の中に  
ヨク



迷いし羊をえて肩におき父の前にたづさえおのれの旨に  
マヨ ヒツジ カタ



よりてこれを天軍にあわせ て世界を救いたまえり  
テンゲン